

保健師コラム

(2023年 お盆号)

はいたい！産業保健専門職(保健師)の千葉です。

久しぶりに大きな台風が沖縄に直撃しましたね。皆さまのところに被害は無かったですでしょうか。台風当たり年のようですが、今後も被害が大きくなることを祈るばかりです。

突然ですが、皆さんは「幸福経営」という言葉をご存知ですか？

「健康経営®」は耳馴染みがある方も多いと思いますが、「幸福経営って??」という感じですよ。琉球大学国際地域創造学部の大角玉樹教授は、「幸福経営は無限の資源」として企業経営で組織を動かすためには、従前のような従業員のリストラ、コストカットなどのネガティブな考え方ではなく、持続可能なポジティブな考え方を持つことが組織開発に寄与し、さらには地域の健康水準も高めていくという「幸福経営」の考え方を提唱しています。幸福学やポジティブ心理学が基本となった考え方です。ちなみに日本の幸福学の権威、慶應義塾大学の前野隆司先生が「幸福診断度」とう自分の幸福度を客観的にテストするサービスも開発されていますよ。<https://well-being-circle.com/>

いったい「幸福」が会社の業績や、売り上げにどう関係があるのかと疑問に思う方もいるかと思いますが、主観的幸福度の高い人はそうでない人に比べて、創造性が3倍、生産性が31%、売り上げが37%高いという研究結果が出ているそうです(ポジティブ心理学:エド・ディーナーの研究より)。組織の資源として物質的要素だけでなく、健康もそうですし人間の心の状態が幸せであることが重要な経営資源になることを表していると大角先生は話しています。そして人が幸福を感じるものには「地位財」と「非地位財」に分けることが出来るそうです。「地位財」とは他人との比較で満足する、例えば「モノ・お金、地位」など。「非地位財」は相対比較ではないもの、例えば「健康、こころ、人間関係、愛情」などです。

地位財の幸福には限りがありますが、非地位財の幸福には限りが無いので幸福が長続きするともいわれています。企業の経営においても従業員の「非地位財」的な幸福をより豊かにしていくというコンセプトを経営手法に取り入れることをお勧めされていました。

健康もちろん大切ですが「幸福」という言葉には、より身体と心の両方が良い状態であること(Happiness)を表している様にも思います。さらには「幸福」と言う言葉を思い浮かべると、自然と笑顔になってきませんか？

この「幸福経営」は、企業の経営者はもちろん、産業保健スタッフにおいてもよりポジティブな姿勢で職場の健康づくりに取り組むために大切な考え方になるのではないのでしょうか。

今年度は、企業の産業保健スタッフや健康づくりに関わる人たちを対象に、このポジティブな考え方を基にしたセミナーを企画しております！詳細が決まりましたら、またお知らせいたしますね。

(沖縄産業保健総合支援センター 産業保健専門職 千葉 千尋)